

## 1. 概要

政権が相次いで交代し国内が混乱する中、ドゥアルデが議会の圧倒的支持のもと大統領に就任した。就任直後、緊急経済法を議会で通すが、その後の経済政策は朝令暮改を繰り返し経済は停滞、悪化、その状況に不満が高まり鍋叩き運動及び道路封鎖が毎日生じるなど社会的にも混迷し、危機感、閉塞感が増大した。

外交面では、ルカウフ外相が、亜への支援を要請するため就任後すぐ伯を訪問したほか、米国、伊及び西を外遊した。各国の反応は、持続可能な経済政策の策定を条件に支援する用意があるということで一致した。

## 2. 内政

### (1) ドゥアルデ政権の誕生

(イ) 1日23時上下院合同議会において、賛成262票、反対21票、棄権18票でエドゥアルド・ドゥアルデ(ペロン党)が大統領に選出され、2日12時、大統領府にて就任した。

(ロ) 大統領に選出後行われた就任演説の要旨

(a) 任期は2003年12月まで

(b) 救国政権として全ての政治勢力、企業、NGO団体、労組とともに政権を運営する

(c) 現行制度(新自由主義的経済政策)の路線を修正し、生産、雇用を重視した新たなモデルを構築する。

(d) 兌換法を廃止する

(e) 公的対外債務の支払いを一時的に停止する

(f) 100万の新規雇用創出政策を継続し、失業対策基金及び失業訓練プログラムを策定する。

(g) 預金している通貨によって引き出せるよう保障する(ドル預金はドルで、ペソ預金はペソで)。

(ハ) 省庁再編成

新たに生産省を創設した。

### (二) 組閣

首相：ホルヘ・カピタニッチ(ペロン党)

大統領府長官：アニバル・フェルナンデス(ペロン党)

経済大臣：ホヘル・レメス・レニコフ(ペロン党)

外務大臣：カルロス・ルカウフ(ペロン党)

内務大臣：ロドルフォ・ガブリエリ(ペロン党)

生産大臣：ホセ・イグナシオ・デ・メンディグレン(民間)

労働大臣：アルフレッド・アタナソフ(ペロン党)

司法大臣：ホヘル・ヴァノッシ(急進党)

厚生大臣：ヒネス・ゴンザレス・ガルシア（ペロン党）

教育大臣：グラシエラ・ジャネタシオ（ペロン党）

国防大臣：オラシオ・ハウナレナ（急進党）

社会活動大臣：ロドルフォ・ガブリエリ内務大臣兼任

## (2) 社会騒擾

毎日のように全国各地で散発的ながら鍋たたき運動、道路封鎖などの抗議運動が展開されたが、主要なものは以下のとおり。

(イ)10 日夜から 11 日早朝にかけて、連邦首都区を中心に預金引出制限の解除、最高裁判所判事の更迭、大統領選挙の早期実施を求めて市民が空鍋を叩いて抗議運動を行った。参加者の推定数は、約 8000 人。一部暴徒化したグループが、商店や銀行に投石、放火するなどして物的被害が出て、結局 7 名が逮捕された。

(ロ)23 日、ブエノス・アイレス郊外のペロン党下院議員の自宅で抗議運動を行っていた最中、家屋から発砲があり抗議運動側に負傷者が出たため、抗議運動側が応戦、放火し、下院議員宅は全焼した。

(ハ)25 日 20 時より、全国規模の鍋たたき運動が実施され、五月広場に約 8000 人が集まった。商店、銀行への襲撃、略奪行為は、目立って生じていないが、数ヶ所で治安当局と衝突したこともあり、結局 45 名の負傷者及び 68 名の逮捕者が出た。

## (3) 国民合意 (concertacion nacional)

(イ)ドゥアルデ大統領は 14 日、カトリック教会及び国連の代表を同席させて、テレビ演説を行い、国民に向けて現在の深刻な危機的状況を克服するため、あらゆる社会セクターの参加による国民合意(団結)が必要であると主張した。

(ロ)15 日より、労組、政党、産業界、銀行業界及び EU、IMF、IDB、世銀の代表らが個別に参加し、協議を進めた。

(ハ)主催者側は 30 日、一連の交渉を受けて中間報告を行い、政治改革、預金引出制限の解除、食料及び薬品の配給などの緊急社会政策、失業対策、マスコミへの倫理ある行動等を求めた。今後は、さらに具体的に交渉を進め、政策提言を目指すこととなる。

## (4) ペロン党

(イ)メネム元大統領(党総裁)は、滞在先のチリ及び墨において、ドゥアルデ大統領は、統治能力がない人物で、経済政策とりわけ兌換法の廃止は最悪であると批判し、ドゥアルデは大統領の座を射止めるためにアルフォンシン上院議員(元大統領、急進党)と手を組んだと述べた。しかし、国内外からの批判を受けて、18 日、自らの発言が度を越えたいたのであれば謝罪したいと声明を出した。

(ロ)レウテマン・サンタフェ州知事は 18 日、メネム元大統領の現政権批判に対し国外から批判するのは弱虫としかいいようがないと批判した。

## (5) 主要人事

3日、フェリペ・ソラ(ペロン党ドウアルデ派)がブエノス・アイレス州知事に就任した。  
4日、ファン・カルロス・マケダ(ペロン党デ・ラ・ソタ派)が上院暫定議長に就任した。  
7日、カルロス・ソリア(ペロン党ドウアルデ派)が国家情報庁長官、ダニエル・シオリ(ペロン党メナム派)が、観光・スポーツ長官に就任した。  
8日、ファン・パブロ・カフィエロ(フレパソ)が副首相(国家改革長官兼任)に就任した。

### 3. 外交

#### (1) 米国

(イ)ドウアルデ大統領は17日、ブッシュ大統領からの電話を受け会談を行った。同会談で、ブッシュ大統領は、米国と亜の堅固な二国間関係を再度確認し、亜の直面している問題の深刻さについて十分認識していると述べ、必要な技術的な援助を行うとともに、亜が持続可能な経済政策を策定すれば、米国はIMFを通じて支援する用意があると述べた。他方ドウアルデ大統領は、亜は米国に対して従来通りの緊密な関係を維持し、米国との同盟関係を継続すると発言した。

(ロ)ルカウフ外相は28日、まずライス大統領補佐官(国家安全保障担当)と会談を行い、国際金融機関からの援助の獲得に向けた米国の政治支援を得るべく亜経済危機に関する説明を行い、亜が米国のNATO域外同盟国である点と同盟国の責任について確認した。その後、ゼーリック通商代表とも会談を行い、亜製品の米国市場アクセスに関する諸問題を取り扱う二国間委員会を2月上旬に発足させる点につき合意した。

(ハ)ルカウフ外相は29日、オニール財務長官、パウエル国務長官と個別に会談し、パウエル国務長官との会談においてドウアルデ大統領のブッシュ大統領宛の書簡を手交した。同外相は会談において、亜は財政面での信用を回復すると同時に、競争力を高めることも必要であり、そうした目的達成には、国際金融機関からの支援が必要であると述べ、右発言を受け米政府は、亜政府が的確な決断をし持続可能な経済政策を発表するという条件の下に国際金融機関に対し亜への支援を働きかける用意があると回答した。

#### (2) 伊

ルカウフ外相は30日、チャンピ大統領とベルルスコーニ首相とそれぞれ個別に会談し、同首相から、伊は全面的かつ具体的な形で亜を支援し、亜に対する支援を引き出すために、G7や国際金融機関に対しEUとして働きかけるべく、EU各国内で調整していくとの返答を得た。また、両政府は2月上旬に協力協定を締結する予定であり、伊政府から1億ユーロの融資(75%は中小企業向け、25%は医療機器関連分野向け)が組み込まれる模様である。さらにルカウフ外相は、ドウアルデ大統領の書簡を手交した。

#### (3) 西

ルカウフ外相は31日、アスナール首相と会談し、ピケ外相主催の夕食会に出席した。アスナール首相との会談において、同首相は亜を支援していく用意はあるが、各国が亜に対する支援をIMFに働きかけることができるように、亜自身も安定した政策枠組みを確立させ、金融システムを維持し、投資家の信頼を得られるような法的保護を保証する必要がある

ると述べた一方、ルカウフ外相は、ドゥアルデ大統領の書簡を手交した。

#### (4) 伯

ルカウフ外相は8、9日、就任後初の外遊先として伯を訪問し、カルドーゾ大統領、ラフェル外相、マラン経済相等と会談した。今回の訪伯の目的は、亜の新経済政策を説明するとともに、現在停滞状態にあるメルコスールを再活性化することであった。また、亜国内のインシュリン不足を受け、伯は亜に対してインシュリンを提供することを決定し、その一部を政府専用機で空輸した。

#### (5) キューバ

ルカウフ外相は訪米中の28日、ネグロポンテ米国連大使と会談し、キューバの人権問題をめぐるドゥアルデ政権の姿勢に関する言及はなかったものの、亜政府は人権擁護という立場を維持すると述べた。また、29日のパウエル国務長官との会談においても同テーマが取り上げられ、同席したレドラド亜外務省経済通商担当次官によると、国連の人権問題における両国の姿勢は一致しているが、現在のところ、国連における具体的行動については未定である由。

#### (6) メルコスール

11日、ブエノス・アイレスにおいてメルコスール加盟国及び準加盟国の6ヶ国外相が会合を開き、危機に直面している亜に対しメルコスール各国が支援を表明し、域内の経済及び金融システムの安定に向けたマクロ経済の協調を重要視した外相共同宣言が署名された。また各国外相は、大統領府にてドゥアルデ大統領と会談した。

#### (7) 要人往来

##### (イ) 来訪

11日 メルコスール諸国、チリ、ボリヴィア外相

29日 バジェ・ウルグアイ大統領

##### (ロ) 訪問

8-9日 ルカウフ外務大臣、カルドーゾ大統領、ラフェル外相等と会談のため伯へ

28-29日 ルカウフ外務大臣、パウエル国務長官、オニール財務長官、ライス大統領補佐官、ゼーリック通商代表と会談のため米国へ

30-31日 チャンピ大統領、ベルルスコーニ大統領、ソダノ・バチカン国務長官と会談のため伊へ

31日 ピケ外相、アスナール首相、カルロス国王(2月1日)と会談のため西へ

#### (8) 今後の主要日程

##### 訪問

3月22日 ドゥアルデ大統領、開発資金国際会議出席のためメキシコへ